

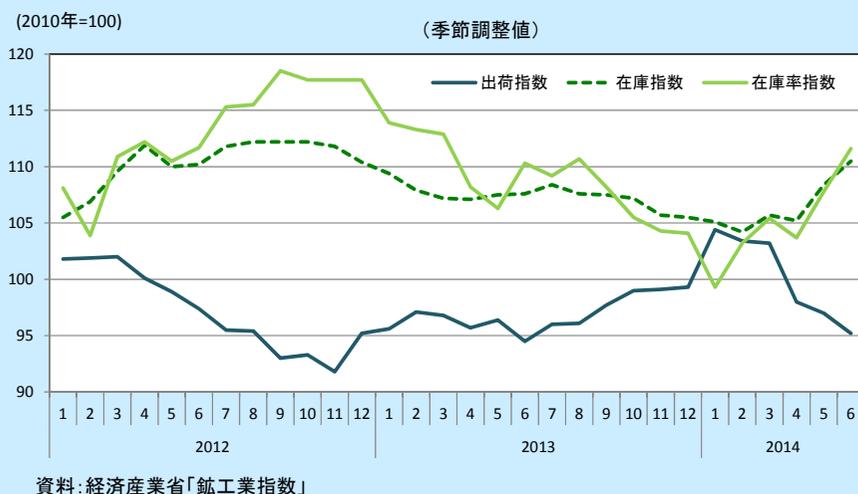
日本：鉱工業生産指数（2014年6月）

MRI Daily Economic Points
July 30, 2014

図表 鉱工業生産指数



図表 出荷指数 在庫指数 在庫率指数



評価ポイント

今回の結果

- 6月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比▲3.3%となった。4月の同▲2.8%のあと、5月に同+0.7%と若干持ち直したものの、再び低下した。
- 業種別にみると、15業種中14業種が低下と、幅広い業種で低下した。パソコンなどの落ち込みから情報通信機械工業が前月比▲9.0%と大きく低下したほか、輸送機械工業(同▲3.4%)、電子部品・デバイス工業(同▲3.1%)、はん用・生産用・業務用機械工業(同▲3.0%)など、軒並み大幅な低下となった。
- 出荷指数は前月比▲1.9%となった。出荷は、消費税増税前の2月から減少に転じており、5カ月連続のマイナス。
- 一方、在庫指数は前月比+1.9%と2カ月連続の上昇。消費税増税後に出荷が伸び悩み、在庫が積み上がりつつある。ただし、12年半ば以降、在庫削減が進んできたほか、企業は増産に対して慎重姿勢を崩しておらず、在庫水準としては過度に高い状況ではない。
- 生産予測調査では、7月は前月比+2.5%、8月は同+1.1%と増産が見込まれている。ただし、業種平均ではプラスであるものの、7月は11業種中5業種で減産見込み、輸送機械は8月まで減産継続が見込まれるなど、増産に慎重な業種もみられる。

基調判断と今後の流れ

- 鉱工業生産指数は、増税後の需要減少を背景に低下傾向にあるが、7月以降は増産が見込まれている。
- 97年増税後の在庫積み上がりなどの教訓も踏まえ、企業は需要の回復状況を慎重に見極めているとみられる。
- 在庫水準は過度に高い状況ではないことから、消費や設備投資などの需要が回復に向かえば、生産も7月以降、需要見合いで緩やかに上昇していくであろう。